



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 医療安全と歯科病院

歯科病院長 岡野 友宏

医療における安全がいま、問われています。米国では予防し得るとされる医療過誤により、毎年最大で98,000人、最小の見積もりでも45,000の方が亡くなるといわれています。本来、病院は患者さんに安穩を与える場ですからこのような事態はあってはなりません。「新たな疫病 医療過誤」(朝日新聞社2007年)は死因の第5位を占め「疫病」のように蔓延している医療事故について多数の事例を提示し、その原因を科学的・客観的に分析しています。これを読むともはや医療事故は人間にとって不可避な事象であるものの、医療事故を予防するシステムをつくることの重要性が示されています。もう一つの話書「To Err is Human」(Institute of Medicine, 1999)では「人は過ちを犯すものである。よって医療ミスが起こっても(故意にやったものでなければ)人を責めてはいけない。システムが悪いから発生するのである」と述べています。



医療事故を防止するシステム作りは我が国においてもこの10年間、特に重視されるようになりました。「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」(法律第八十四号, 平成18年6月21日公布, 平成19年4月1日施行)に基づき、厚生労働省医政局長通知として出された「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律の一部の施行について」の「第2 医療の安全に関する事項」において、きわめて具体的に医療安全についてのシステム作りを国として指導しています。すなわち、1. 医療の安全を確保するための措置、2. 医療施設における院内感染の防止、3. 医薬品の安全管理体制、4. 医療機器の保守点検・安全使用に関する体制、において、安全管理委員会の設置と基本的考え方の周知、院内感染・医薬品・医療機器についての責任者の配置、職員に対する定期的な研修、業務手順書の作成とそれに基づく業務、情報の収集・保管、改善方策の提案・実施など、大病院から無床診療所までのすべての医療機関に義務づけています。

この活動の一つに「インシデント」報告があります。

医療におけるインシデント(ヒヤリ・ハットとも呼ばれます)とは、「医療上で患者さんに起こった、もしくは起こりそうになった好ましくない事象」を指しており、広い意味ではアクシデント(医療事故)も含まれます。本院では「インシデント」報告は「リスクマネージャー委員会」に提出され検討されます。年間300件弱の報告があり、患者と医療関係者間のコミュニケーションエラー、医療材料・機器の管理・誤操作・破損、薬剤の投与等が多く、ときには誤飲・誤嚥も発生しています。本院では幸いにして重大な医療事故はありませんが、「インシデント」報告を検討することが事故の発生を抑制しますので、できるだけ多くの報告を出してもらえようの方策を病院として考えています。医療安全に関する実態の把握、改善方策、研修等について検討する場として、すべての診療科の責任者と事務担当者が出席する「医療安全管理委員会」があり、これを毎月開催しています。

一方、最近、多剤耐性菌による院内感染が話題になっていますが、本院でも院内感染対策委員会とICT(infection control team)による活動があります。ICTはICD(infection control doctor)と担当歯科医師、看護師、歯科衛生士等からなる組織で、隔週で院内巡視を行い、その場で必要な指示をするとともに巡視結果を病院長に報告します。手洗いの励行などは重要な課題です。また先の法律に基づき、医薬品安全管理責任者と医療機器安全責任者をおき、管理マニュアルの作成、情報収集と改善、研修会の実施などを行っています。いずれも専任者が必要ではありませんが、現時点では兼任となっています。

医療安全は担当者の膨大な精神的・時間的負担と多額の費用とを必要とします。すべての病院関係者と患者さんの支援なしには実現しません。とくに個々の病院構成員の日頃からの注意と向上心を切に期待するところです。

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 10月 8日(金)-10日(日): 旗が岡祭・いぶき祭
- 10月19日(火): 解剖慰霊祭
- 10月23日(土): 父兄会秋季部会
- 10月26日(火): 臨床実習マッチング結果発表
- 11月 7日(日): 推薦・編入I期入試
- 11月15日(月): 創立記念日

## 昭和大学歯科病院臨床研修歯科医 採用試験が実施されました

歯学教育研修センター 長谷川篤司

平成23年度臨床研修歯科医の採用試験が9月4日(土)に実施されました。3つのプログラム合計100名の募集に対して18校から272名(新卒215名, 既卒57名)が受験し, うち本学出身者は111名(新卒88名, 既卒23名)でした。試験は旗の台校舎5号館(面接試験)と4号館(筆記試験)で実施され, 3時間弱の試験時間でしたが, 皆, ダークスーツで肅々と試験に臨みました。この結果は9月15日の臨時研修管理委員会, 歯学部教授会を経て, マッチング協会に登録され, 11月2日にマッチング結果として明らかになります。



## シドニー大学歯学部 留学記

口腔衛生学教室 大岡 貴史

4月からシドニー大学歯学部に留学し, 附属病院であるWestmead Hospital Centre for Oral Healthの小児歯



科およびSpecial care unitに在籍しております。こちらでは, 言語聴覚士のMs. Serafinと一緒に小児の口腔機能や乳児の哺乳障害に対する指導に参加させていただいています。また, この病院では舌小帯の異常に対して早期から介入を行っています。授乳に問題を抱え, 舌小帯に異常があると診断された多くの乳児が紹介され, その多くは新生児です。生後1日の児も診る機会がありました。こちらの小児歯科では積極的に舌小帯を切除する処置を行っています。新生児は外来で処置をしますが, 生後数か月以降の児は全

身麻酔下での処置となり, その場合は手術室の順番が回ってくるまで1年待ちになります。そうすると哺乳以外にも言語障害が生じる可能性があり, 舌小帯への早期介入が必要という概念のようです。

こちらでの上司である Dr. Leda が大会長を務める国際障害者歯科学会が2年後にシドニーで開催される予定です。その準備も始まっており, 日本からも多くの参加を期待しているという大会長の言葉をこの場を借りてお伝えし, シドニーからの報告とさせていただきます。

## Life in Showa University

アデレード大学 Yinan Lu

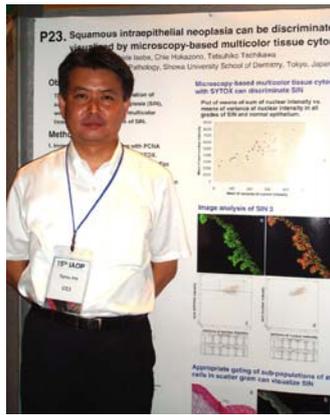
Showa University is a unique, well established University with a strong focus on patient-centered health care. I was really surprised all the 4th year dental students have several rotations to practice how to raise a periodontal flap and suturing on their own pig's head. The facilities provided to students are also very advanced with computer screen available for each student in the laboratory. In Showa University, during the first year, all student staying in a dormitory. This allows student to develop a better skill for team work which is very important in their future career. Each 5th year dental students will get a chance to present a case report that they have seen in the hospital with students from other schools to develop a treatment plan and will be questioned by other doctors and professors during the seminar. It is a really good teaching strategy to make dental student to understand that oral health is an integral part of total health, and oral health care is an integral part of comprehensive health care. I am glad to visit all the different department of dentistry in Showa University, and this allows me broaden my insight into dentistry. This also make me realize the difference between the two universities and I am looking forward to share my wonderful exchange experience, all the good aspect of dentistry that our exchange group learnt from Showa University to rest of my colleagues in Australia.



## 第15回国際口腔病理学会に参加しました

口腔病理学教室 入江 太郎

8月16日から20日まで韓国・ソウルで開催された第15回国際口腔病理学会に参加いたしました。出発日の頃の東京はものすごい暑さでしたが、それより若干涼しく感じられたのは幸いでした。会場の Coex Center はアジア最大級の大型複合施設とのことであり、地上部分のコンベンションセンターの他、地下には広大なショッピング・フードエリアが併設されていました。その様な施設であるためかテロ対策には万全を期している様子であり、広々とした正面入口では装甲車も繰り出した特殊部隊の演習が連日繰り広げられていました。3階の会場から1階のホールに降りると辺り一面煙が充満し火薬の匂いが漂っていたのにはちょっと驚きました（演習と称した参加者のガードが目的であったのかもしれませんが?）。その様な IRIS（韓流ドラマです）張りの少々ハードボイルドな環境の影響もあったためか、会場は熱気にあふれており、さすが世界の口腔病理の専門家達と感じられるマニアな質問も頂きました。同じことに興味をもつ人間同士の絆の様なものが感じられました。最後になりますが、カンジャンケジャン（ワタリガニのしょうゆ漬け）通りとして有名な新沙洞で食べたそれがあまりにも美味しかったことが忘れられません。



われてしまう場面も数回見受けられたほどでした。

ゲントの町は首都のブリュッセルから50 km 程離れていたことから、移動はレンタカーを利用しました。ブリュッセル市内の朝夕のラッシュは日本と同様でしたが、交通網が大変充実しており、アントワープやブルージュ、さらにフランスやオランダ、ドイツまで足を運ぶことができました。ヨーロッパは列車の旅が有名ですが、車の旅もお勧めします。



## 1年次早期体験実習が実施されました

口腔微生物学教室 深町 はるか

平成22年度の1年次早期体験実習が、8月30日から9月16日の日程で実施されました。期間中に4学部合同の実習（福祉等施設見学実習、救急・心肺蘇生講習）と学部別実習が行われました。



歯学部の学部別実習は、「将来、歯科医師となるための専門科目の学習を開始するにあたり、目標を持ち、学習意欲を高めるために、歯科医院における歯科医師の役割と歯科医院スタッフ、患者とのコミュニケーションの重要性を体験し、人間性豊かで優秀な歯科医師になる目的意識を持つ。」という目標のもと、歯科医院を見学させていただく実習です。実習は3日間を1クールとして、1日目に歯科ユニットの構造と操作、手洗い実習、歯科医院を想定して患者様の導入やエプロン着脱等のロールプレイ実習、2日目には、富士吉田市周辺でご協力を頂いた歯科医院で診療を見学、3日目に実習報告会、という日程で行われました。実習後の学生は、現場を体験したことで歯科医療の具体像を持つことができた様子で、専門科目の授業が楽しみになった、という感想もありました。この早期体験実習は、学生にとって医療人を目指す上で大変貴重な経験になったことと思います。最後になりましたが、学生の受け入れにご協力いただきました開業医の先生方、また関係者の先生方にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

## 国際障害者歯科学会で発表しました

口腔衛生学教室 内海 明美

8月25日から28日に、ベルギーのゲント国際コンベンションセンターで開催されました。第20回大会の今年は、創立40周年ということで、名誉理事である日大松戸歯学部の上原進先生が40 years of IADHと題して記念講演をされました。欧米諸国を中心とした障害者歯科の歴史の中で、日本は当初から非常に研究熱心であり、今大会でも一般演題190余題の25%が、日本人の筆頭演者の発表ということからも、我々の研究・臨床は世界的にも重要な位置を歩んできたことを再認識致しました。昭和大学からは当教室より7演題発表致しましたが、日大松戸、日歯大、日大、阪大、九歯大、明海大、松歯大、岡大の各演者は日本の障害者歯科だけでなく摂食・嚥下リハ学会でもおなじみの顔ぶれが多く、各セッションに占める日本人の割合があまりにも高かったため、議論が白熱したセッションでは座長から「日本語でどうぞ」と言

## チーム医療実習指導者養成ワークショップが開催されました

歯科医学教育推進室 片岡竜太

文部科学省 大学教育推進プログラム(教育 GP)の補助を受け、来年度から5年生の学部連携病棟実習が必修化されます。その準備として今年度10月に大学病院、横浜市北部病院、東病院、藤が丘病院、烏山病院の計11病棟で、実習トライアルを実施します。ワークショップにはこの実習トライアルに協力する各病棟の医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士ら約50名が参加しました。歯学部からは昭和大学病院歯科の岡松先生と診療各科から12名の教員が参加しました。

各病棟の特色を把握した上で、各病棟でどのような目標を持って学部連携病棟実習を行うかディスカッションをしました。その後、4学部



部の学生の1週間の実習内容を立案しました。具体的には検温、血圧測定、清拭、食事介助など病棟看護業務への参加、手術や内視鏡検査などの見学、医学部学生向けのクルズス(小人数で行う臨床講義)への参加、服薬指導を含む薬剤師業務の見学、歯科関連では今までのトライアルの結果を踏まえて、月曜日から火曜日に口腔診察を行い、その結果から口腔ケアプランを立案し、必要に応じて口腔ケアを指導歯科医の下に行うという内容です。

医学・薬学部・保健医療学部看護学科はすでに、大学病院病棟で学生の実習を行っています。歯学部も昨年からは3年生が豊洲病院で病棟体験実習、今年度から、昭和大学病院・藤が丘病院・北部病院・豊洲病院で実習を行います。5年生が歯学部で学んだ知識や技能を一般病院でいかに応用し、チーム医療の一翼を担えるか、全学部学生・教員と病院スタッフが注目しています。昭和大学歯学部が全国に先駆けて行うこの実習で、昭和大学ならではの成果があることを希求しています。

## ノーベル賞受賞者を囲むフォーラムが開催されました

広報委員長 井上富雄

9月23日(秋分の日)の午後1時から4時半に、ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」in 昭和大学「科学は人類に何をなするか」(主催:読売新聞社、後援:外務省、文部科学省、NHK、協賛:昭和大学、トヨタ、清水建設、住友化学他)が、上條講堂で学外400名、学内200名の聴衆を集めて開催されました。2008年ノーベル生理学・医学賞受賞のハラルト・ツアウハウゼン氏と2001年

ノーベル化学賞受賞の野依良治氏が基調講演をされた後、読売新聞社の田中秀一氏の司会で、住友化学の中江清彦氏と片桐敬学長を加えた4人の先生方でパネルディスカッションが行われました。ノーベル賞受賞者のお二人とも、受賞対象の研究の完成まで幾多の困難があったが「つらいと思ったことは全くなく、あきらめずに研究を続けることが大事だとおっしゃっていたのが非常に印象的でした。その後学生からの質疑応答も行われ、盛会のうちにフォーラムが終了いたしました。



また、同日の午前9時から10時半には、Showa International Symposium for Life Science 記念講演会「ライフサイエンスと人類の健康」も併せて開催され、医学部解剖学教室 塩田清二教授、歯学部口腔衛生学教室 向井美恵教授、薬学部毒物学教室 吉田武美教授、保健医療学部作業療法学科 中山貞男教授が「食と健康」というメインテーマで講演されました。本年の秋分の日、昭和大学の学術研究を通して人類の健康に貢献するという姿勢を内外に示した一日となりました。



## 診療統計(平成22年8月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,313	704.3	723.1	696.7
入院患者	509	16.4	15.9	17.4

## 編集後記

歯周病学教室 小林 誠

“Showa Univ. is No.1” を目指し、皆様方が更にご活躍されることを期待いたします。また、お忙しい中、執筆をしていただいた方々に深く御礼申し上げます。